

## 第 21 回基準諮問会議

2014年7月10日、財務会計基準機構（FASF）において第21回基準諮問会議（議長 野崎邦夫 住友化学㈱代表取締役専務執行役員）を開催し、審議が行われた。それぞれの詳細な内容については、財務会計基準機構ホームページ（<https://www.asb.or.jp/>）にて「議事概要」、「議事要旨」（会員限定）を公開していますので、ご覧ください。

### （審議事項）

#### 1. テーマ提言について

新規テーマについて、それぞれの対応に関して審議を行った。

##### (1) 前回までの基準諮問会議に提案されたテーマ

###### ① 会計基準レベル

「継続企業的前提が成立していない状況で適用する会計基準の開発」については、次回以降の基準諮問会議で審議をすることとなった。

「完全親会社が完全子会社に無対価会社分割で事業を移転する場合の会計処理」については、実務対応専門委員会の評価の結果を踏まえ、新規テーマとして提言しないこととなった。

###### ② 実務対応レベル

「リストラクチャリングに関連する引当金、早期割増退職金の会計処理」については、企業会計基準委員会（ASBJ）からの報告を踏まえ、新規テーマとして提言しないこととなった。

「指定国際会計基準を任意適用している会社において、親会社が子会社を吸収合併する際に子会社から受け入れる資産及び負債の適正な帳簿価額の考え方」については、実務対応専門委員会の評価の結果を踏まえ、新規テーマとして提言しないこととなった。

「加速型自社株買い（ASR）の会計処理」については、実務対応専門委員会の評価は、「日本において取引が実行された事例はないため、現時点においては ASBJ の新規テーマとすることは困難であると考えられ、当面、当該取引の進展の状況を見守るべきと考えられる。」とのことであったが、基準諮問会議の委員より、事例がないため取り上げないことは適切ではないなどの意見が聞かれたため、次回の基準諮問会議で引き続き検討を行うこととなった。

##### (2) 今回の基準諮問会議で新たに提案されたテーマ

「総合型厚生年金基金の特例解散における会計処理」、「厚生年金基金の代行部分に関する前納の会計処理」及び「権利確定条件付きで従業員等に有償で発行される新株予約権の企業における会計処理」については、実務対応専門委員会に新規テーマの評価を依頼することとなった。

また、「金融商品会計における上場関係会社株式の減損の取扱い」については、会計基準レベルのテーマと考えられるため、次回の基準諮問会議で審議することとなった。

(3) ASBJによる新規テーマに関する報告

小賀坂 ASBJ 副委員長より、ASBJによる3つの新規テーマに関する報告がなされた。

**2. 企業会計基準委員会の最近の活動状況について**

小賀坂 ASBJ 副委員長より、ASBJの最近の活動状況についての報告が行われ、基準諮問会議の委員から、ディスカッション・ペーパーの位置づけや国際的な意見発信に対する ASBJ の取り組みについて、また、IFRS のエンドースメント手続についてのコメントがなされた。